



第三回GFL同窓会

自主活動



実施日:2023年1月21日

実施場所:荒牧キャンパス 2号館GB155

リーダー:共同教育学部理科専攻3年松井理沙/理工学部化学・生物化学科3年金城翔斗/理工学部化学・生物化学科3年帯刀史織/
 情報学部情報学科2年北村梢生/理工学部電子・機械類2年魏馨明/医学部保健学科学療法学専攻1年庭野祥/
 理工学部物質・環境類1年山口快斗/理工学部電子・機械類1年増田靖大

1.目的

私たちの大学生活は新型コロナウイルス感染症の影響を非常に大きく受けたこともあり、同じ学年のGFL生同士が交流する機会はもちろんのこと、他学年のGFL生との交流の機会もわずかしかなかった。そこで、2018年・2020年と過去2度にわたり開催され、GFL活動を終えた大学院生や社会人の方々、そして他学年・他学部のGFL現役生との繋がりを有する貴重な機会となった同企画を、第三回として本年度も開催し、**一度弱まってしまったGFL生の縦の繋がりを再度強めたい**と考えた。

2.1.実施概要

本年度は荒牧キャンパスの2号館GB155教室にて、修了生と現役生との間で交流会を行った。また、修了生の方にはご自身の経験を踏まえて**国際的、専門的、また就職**に関する内容についてご講演をお願いし、現役のGFL生が**進路**について考える機会にできた。

2.2.実施のための事前準備

12月に広報を始め、現役生とFLC・GFL修了生への周知のためにGmailやSNSを活用した。また会場を荒牧キャンパスにすることで医学部や共同教育学部、情報学部の方が積極的に参加できるように配慮した。さらに**オンラインと対面のハイブリッド開催**にすることで、遠方の方や都合により参加の難しい方と接する機会を作ることができた。1月には数名のGFL修了生の方に講演を依頼し、座談会では現役生が卒業生の方全員と話し合う機会が持てるようローテーショングループを作成した。

3.当日の流れ

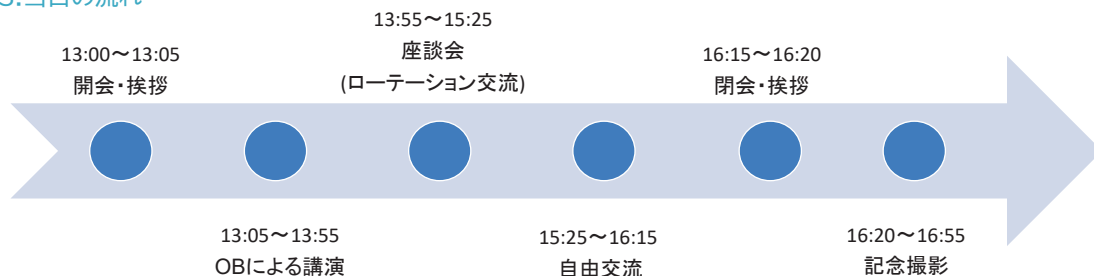


図1. 記念写真

4.1.OBIによる講演

【学んだこと】

- ・英語と勉強は手段であること
- ・目的意識を持つことの大切さ
- ・グローバルフロンティアフォロワーのすすめ
- ・ソニーでの活動について
- ・類推思考とその応用例



図2. 講演会の様子

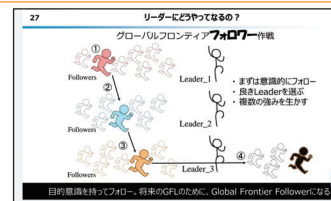


図3. 講演スライドの一部

今回は企画リーダー内に関心の高い**国際・工学系**の分野の方であり、かつ**進路や就職への知見**を深めたいGFL生が多いだろうという意図から世界的な企業であるソニーグループで活躍されている さんにご講演をお願いした。今回の講演会で さんは**目的意識を持つこと**の大切さを話しており、それが印象的だった。そしてGFLでは英語で交流する機会が多分にあり、それを生かすためには自分の英語学習の**ゴールをイメージ**してみようと考えた。またGFL活動を自分のために使うことも大切だと感じた。 さんは組み込みロボットコンテストの大会にGFL生として参加して北関東地区大会で優勝した。ただやみくもにGFLのカリキュラムに沿って活動するのではなく、自身の成長に繋がるような企画を作っていく姿勢は是非参考にしたい。そしてGFLを通してグローバルフロンティアリーダーになるために、まずは**リーダーではなくフォロワーになる**という さんの考え方には斬新なものがあった。まず、自身が良いと感じたリーダーをまずはフォローしてともに活動することで、リーダーから様々なことをインプットする。そして今度は**自分がリーダーになってアウトプット**することにより着実にリーダーとして成長できる(図3)。この発想は様々な企画に参加する機会があり、自主企画を立ち上げることのできる**GFL生の強み**を生かすことができるものであると感じた。

4.2.座談会

【学んだこと】

- ・修了生の現在の仕事や学生時代の活動
- ・留学の多様性とGFLの魅力について
- ・進路や研究室への知見

参加者は1グループ12人前後のグループに分かれ、1セッション15分としてローテーションを行った(図4)。初めに簡単な自己紹介等を行った後、修了生の方の仕事の話から**進路や就職**、研究室などの様々な話をいただいた。すべての参加者が交流できるように現役生と修了生がグループ内で少人数ローテーションを組む、または修了生を中心に現役生に話すという形式が多かった。**縦の繋がりを**作るきっかけとしては十分なものであった。また、語学だけではなく自身が力を入れているトランプを学びに留学をした修了生の話聞き、**自身の興味・関心からグローバルに様々な活動を**できるのはGFLならではと感じた。そして就職や進路などについてネットなどでは得にくい情報や意見を聞くことができ、常に刺激のある交流会であった。

4.3.自由交流会

【学んだこと】

- ・GFL活動への原動力
- ・GFL修了生の取り組み
- ・多様な進路や他学部への理解

始めの15分は修了生の方には学部ごとに簡単に分かれていただき、学部生は自分の所属学部の先輩と交流した。そのあとは自由に移動して、**他学部の学生とも積極的に交流した**(図5)。座談会では聞けなかった進路や各々の活動、研究室についての話ができた。また修了生との交流の中で、修了生の多くは「**様々な分野に挑戦したい**」という思いをGFL活動の原動力にしていたと感じた。交流会の中では留学をたくさん経験した方、学部を主席で卒業した方や、講義を最前列で受けていた方、たくさん自主活動を企画した方など、GFL修了生の意識の高さを感じ、今後のGFL活動や学生生活に対する意欲が高まった。そして、自由交流会だけでなく、交流会終了後も**活発な意見交換**ができたと感じた。



図4. 座談会の様子



図5. 交流会の様子

5.総括

今回の講演ではOB・OGによる講演会、座談会、自由交流会の3つのプログラムを行った。今回のGFL同窓会は講演会や座談会と自由交流の時間を多く確保したため、より深い交流が出来たと感じた。また全てのプログラムにおいてオンライン参加者も対面での交流と同等の機会を持てた印象で、**同窓会の新しい形**を作ることができた。OB・OGの方と意見を交える機会は少なく、本企画が現役生・修了生の双方にとって貴重な交流の場になり、**縦の繋がりを有する切っ掛けとしては十分な**ものであったと感じた。

6.謝辞

指導教員の大学教育センターPramila Neupane先生や講演していただいたソニーグローバルソリューションズ株式会社の さんをはじめ、本企画の実施に当たりサポートしてくださった教職員の皆様、及びご参加いただいたOB・OG、学生の皆さんに心より感謝申し上げます。